

BACH スクリーンコンサート

2022. 9月

9月のテーマ チャイコフスキーの聴いておきたい作品

チャイコフスキーの多くの肖像画は彼が厳しい人物であるかのように「いかめしい」ものがほとんどです。この肖像画からはチャイコフスキーはとても厳格な音楽を作った人物のイメージが伝わってきます。

しかし、チャイコフスキーが好きな方の大方の評価はとても叙情的で流麗な音楽を作る作曲家として認識されているはず。メルヘン的な曲想やロマンティックな感じが現代のチャイコフスキーファンの心を掴んでいます。

3大バレエと呼ばれるのはすべてチャイコフスキーの3曲だし、バレエに限らず多くのジャンルで名曲を残しているのも素晴らしい作曲家です。



1、交響曲第5番4楽章 12分

特に4楽章がよく聴かれます。弦楽器群が凜とした重々しさから始まり、やがて荒々しく勝利の凱歌のように「運命」の主題になり、堂々とした迫力とエネルギーの中で幕となります。

2、交響曲第6番「悲愴」第4楽章 11分

「悲愴」というタイトルが示すように、深い悲しみに満ちた音楽です。第1楽章の美しい調べと破滅的な音楽や第4楽章の深く悲しく沈む感情は救いようがありません。荒れ狂うところは激しく、沈むところは異常に悲しくなったりしながら、やがて曲は消えるように終わります。

3、ピアノ協奏曲第1番第1楽章 20分

言わずと知れたピアノ協奏曲の中でも、もっとも人気の高い曲の一つです。豪華絢爛たる雰囲気は、コンサートでは特に映え、ソリストが（普通に演奏すれば）拍手喝さいを浴びることは間違いのない名曲です。この作品は、チャイコフスキーの出世作ともいえる作品です。

4、ヴァイオリン協奏曲第1楽章 20分

ベートーヴェン、ブラームス、メンデルスゾーンの3作品で「三大ヴァイオリン協奏曲」と呼ばれますが、それにチャイコフスキーも加えて「四大ヴァイオリン協奏曲」と呼ばれることもあります。ヴァイオリニストにとっては難曲としても知られています。

5、弦楽セレナーデ 第1楽章（ソナチナ形式の小曲部分） 10分

凍てついた大地を思わせるような重厚な弦楽のトゥッティから始まります。第1楽章は有名な弦楽のトゥッティによる前奏から始まり、展開部なしのソナタ形式となっています。第2楽章はワルツで、この曲も有名です。第3楽章はアダージョ、第4楽章はアレグロで最後に第1楽章前奏が戻ってきて終わります。

6、弦楽四重奏曲第1番 第2楽章「アンダンテ・カンタービレ」 8分

第2楽章「アンダンテ・カンタービレ」の冒頭はあまりにも有名で、ムード音楽などにも編曲されています。

7、バレエ音楽『白鳥の湖』 10分

(1)解説 (2)4羽の白鳥たちの踊り (3)第二幕 情景

チャイコフスキーが作曲した最初のバレエ音楽。『白鳥の湖』は、悪魔の呪いによって白鳥に姿を変えられた王女の物語。

8、バレエ音楽『眠れる森の美女』 6分

(1)解説 (2)ワルツ

登場人物があまりにも多く、舞台装置も大がかりなので、日本ではなかなか上演される機会がない。

フロレスタン14世という国王に待望の姫が生まれます。6人の妖精が招待され、洗礼式（命名式）が行われ、姫は「オーロラ」と名付けられました。しかし「邪悪な妖精カラボス」が現れて姫に呪いをかける。オーロラ姫は、16回目の誕生日に、呪いを完全に解くことは出来ずに眠りにつく。そして、「100年の眠りの後、王子が現れその口づけによって目を覚ます。

9、バレエ音楽『くるみ割り人形』 30分

(1)解説 (2)こんぺいとうの精の踊り

(3)組曲 ①小さな序曲 ②こんぺいとうの精の踊り ③トレパック ④アラビアの踊り

⑤中国の踊り ⑥葦笛（あしぶえ） ⑦花のワルツ

クリスマスの夜。広い大広間ではパーティーが行われ、少女クララは老人からくるみ割り人形をプレゼントされる。ところが、取り合いになり兄のフリッツが壊してしまったので、老人に修理してもらった。お客様も帰り、夜みんなが寝静まった頃、クララは人形のベッドに寝かせたくるみ割り人形を見に行った。ちょうど時計の針が12時を打つと、不思議なことに、クララの体は人形ほどの大きさになってしまう。くるみ割り人形はやがて王子様に変身して・・・